

支援

菊陽町次世代育成支援行動計画 「わんわん輝く陽のキッズプラン」 子どもが健やかに育つことのできる町へ

☎ 福祉課 子育て支援係 ☎(232)4913

子どもたちの元気な姿、明るい笑顔は、家庭に、地域に、そして町全体に活力を与えてくれます。全ての子どもが将来を見失うことなく、夢に向かってたくましく生きていけるよう、心身ともに健やかに成長できる町の実現を目指します。

次世代を担う子どもたちが未来に希望を持ち、「子育てするなら菊陽で」と言われるように安心と喜びをもって子どもを生み育てられる町づくりを実現するため、本町では、平成22年度から平成26年度までの5年間を目標年度に定めた「後期行動計画」を策定し、実施しています。今回は平成22年度の実施内容について報告します。

地域における子育て支援を推進する

- 【主な取り組み】
放課後児童健全育成事業(学童保育)
菊陽中部小学校の改築工事に伴い、学童保育「すくすくクラブ」では、平成23年8月～平成25年7月までの2年間、菊陽町民総合運動場の一部を利用して開所していくことになりすが、平成22年度は、そのための協議を行いました。
- つどいの広場事業
ふれあい交流・福祉支援センターにおいて、親子や保護者同士が交流する

子育てを支援する生活環境を整える

- 【主な取り組み】
安全な道路の整備促進
通学路など、歩道の重要性を見極めながら、幅の広い歩道の整備に努めました。また、用地の確保が困難な道路は、路側帯にカラー舗装を行い、歩行者の安全確保を図りました。
- 防犯灯の設置
子どもが犯罪などに遭わないよう、防犯灯未整備地区の通学路へ44基の防犯灯を設置しました。
- 【今後の課題と方向性】
町営「光団地」の建て替え工事に伴い、児童遊園の整備も行われます。今後は、住宅以外の住民も気軽に使用できる施設整備を推進していきます。また、道路整備や防犯灯の設置は、町全体の改善箇所などを把握し、児童の安全や地域の要望または緊急性を考慮し、計画的な整備を行っていきます。

職業生活と家庭生活の両立を支援する

- 【主な取り組み】
男女共同参画社会の推進
男女共同参画社会推進懇話会では、4回の会議を開催し、男女共同参画社会の実現に向け、町民の意識改革に努めました。また、任意19団体、個人会員8人で構成される菊陽町男女共同参画さんさんの会(男性も含む)では、会議や研修会を3回開催しました。

場として、つどいの広場「ぴーす」を毎週月・水・金曜日の週3回開設し、延べ3,815組、8,553人の利用がありました。

- 病後児保育事業
ふれあい交流・福祉センターにおいて、病後児保育室「こあら」を月曜日から土曜日まで開設し、延べ386人(新規登録は147人を受付)の利用がありました。
- 待機児童の減少
「ここのとり保育園」と「優貴保育園」の2園が開園し、待機児童の減少を図ることができました。
- 【今後の課題と方向性】
保育サービスの充実を図るため、平成23年度から全11の保育園で延長保育事業が実施されます。また、子育て支援拠点事業として、菊陽町地域子育て支援センター(白鈴園内)、ミニキャロットクラブ(光の森キャロット保育園内)、つどいの広場ぴーす(ふれあい交流・福祉支援センター内)の3カ

家庭と仕事のバランスに対する考え方や子育てに対する企業などの理解を深めるため、今後とも情報提供や啓発活動を行っていきます。また、子育てと就労の両立がスムーズに実現するよう、保育サービスの充実や放課後児童健全育成事業、病後児保育などの充実を図っていきます。

【今後の課題と方向性】

子どもなどの安全を確保する

- 【主な取り組み】
「ごども110番の家」の標識板配付
各学校のPTAと連携し、住民の協力(商店や事業所など)を得て「ごども110番の家」の充実・強化を図りました。
- 交通安全教室の実施
幼年期から交通安全への意識を高めるため、交通安全協会や講習員と協力し、各保育園・幼稚園、小学校の生徒や保護者を対象とした「交通安全教室」を実施しました。
- 防犯パトロール隊による活動
大型ショッピングセンターなど町内のパトロールはセーフティパトロール隊が、通学路などはスクールパトロール隊がパトロールを実施しました。また、新しく行政による「菊陽町安全安心青色パトロール隊」が編成され、防犯意識の高揚を図りました。
- 【今後の課題と方向性】
セーフティパトロール隊、スクール

所を中心に、さまざまな催しや活動を実施しています。今後は、新たな子育て支援施設整備の検討を行ってまいります。

子どもと母親の健康を確保する

- 【主な取り組み】
乳幼児健康診査など
子どもたちの健やかな成長発達の援助、安心して子育てができる環境確保のため、**①**乳幼児健康診査(3～4カ月児・受診率100%、6～7カ月児・受診率99・6%、1歳6カ月児・受診率94・4%、3歳児・受診率97・7%)
②2カ月児訪問指導・受診率99・6%
③育児パンフレットの送付などを行いました。その結果、必要に応じてフォロー検診や電話相談、家庭訪問などを行いました。
- 各種相談事業
母親の育児不安解消のため、**①**いきいき子育て相談(延べ250人)**②**心理相談(月2回、定員4人)**③**1歳児健康相談(対象者459人のうち355人が利用)を実施しました。
- 食育の推進
子どもたちの活動や遊びの中で食を大切に取る取り組みとして、保育園や小学生を対象とした農業体験(田んぼの学校、芋掘り、にんじん掘りなど)、中学生を対象にした伝承料理教室、保護者を対象とした地産地消料理教室などを実施し、「食」の大切さや食べる楽しさを伝えています。

要保護児童への対応など
きめ細かな取り組みを推進する

- 【主な取り組み】
児童虐待防止対策
要保護児童対策地域協議会の活動(学校訪問:6月、代表者会議:10月、実務者会議:3月)を行い、個別ケース検討会議を随時開催しました。また、平成23年度から、要支援児童対策員を配置し、支援を要する児童を対象とした家庭訪問や相談事業を実施して児童の健全育成に努めていきます。
- ひとり親家庭への経済的支援
ひとり親家庭への医療費助成として743万円(3,696件)を支給し、そのうち父子家庭は3世帯の新規受給者登録を行いました。また、児童扶養手当の書類受付を行い、福祉事務所へ送付しました。
- 小・中学校への特別支援指導助手などの配置
町内の小・中学校へ特別支援指導助手を24人、学習サポーターを11人配置し、学習の基礎基本定着の充実を図りました。
- 【今後の課題と方向性】
児童虐待に関する相談件数は、全国

しみを伝えるため、さまざまな場所で食育の推進を行いました。

- 【今後の課題と方向性】
子どもの健やかな成長のために最も大切なことは、母親と子どもが心身ともに健康であることです。そのため、乳幼児期の各種健診をはじめとした母子保健事業の充実や母親の育児不安の解消・緩和につなげるための相談体制を強化していきます。
- 【主な取り組み】
学校施設の整備
菊陽中部小学校の改築工事に係る実施設計や菊陽西小学校の増築計画に係る基本構想を作成しました。
- 新教育課程の完全実施
小学校は平成23年度、中学校は平成24年度からの新教育課程への完全実施を受け、その狙いに即した授業改善を推進しました。
- 職場体験学習
菊陽・武蔵ヶ丘両中学校で、3日間から5日間の職場体験を実施し、勤労や職業について学び、自分の将来設計ができる生徒の育成に努めました。
- 【今後の課題と方向性】
子どもに安全で豊かな学校環境を提供するため、耐震改修工事や大規模改修工事などを順次行っています。

特定事業の実施状況(平成22年度)

目標設定項目	平成21年度 実施事業量など	平成22年度 実施事業量など	平成26年度 目標事業量など
ファミリーサポートセンターの実施箇所数、協力会員数	1カ所 153人	1カ所 170人	1カ所 180人
放課後児童健全育成事業(学童保育)実施箇所数、利用者数	6カ所 398人	8カ所 405人	8カ所 486人
ショートステイ事業の実施箇所数、定員数	2カ所 2人	2カ所 2人	2カ所 2人
トワイライトステイ事業の実施箇所数、定員数	2カ所 2人	2カ所 2人	2カ所 2人
施設型病後児保育事業の実施箇所数、定員数	1カ所 3人	1カ所 3人	2カ所 6人
一時保育事業の実施箇所数、定員数	2カ所 20人	2カ所 20人	4カ所 60人
つどいの広場事業の開設箇所数	1カ所	1カ所	1カ所
地域子育て支援センター設置箇所数	2カ所	2カ所	4カ所
通常保育事業の定員数(入所児童数)	966人	1,010人	1,010人
延長保育事業の実施箇所数、定員数	8カ所 80人	10カ所 100人	11カ所 110人
休日保育事業の実施箇所数、定員数	-	-	1カ所 10人

的に増加傾向にあり、その内容も専門的な援助を必要とするケースが増えてきています。特に子どもの生命が奪われるなど重大な事件も後を絶たない状況において、児童虐待の予防・早期発見・早期対応から子どもの自立に至るまで、適切な対応と支援体制の整備を図っていきます。